

コロナ禍における地域活動

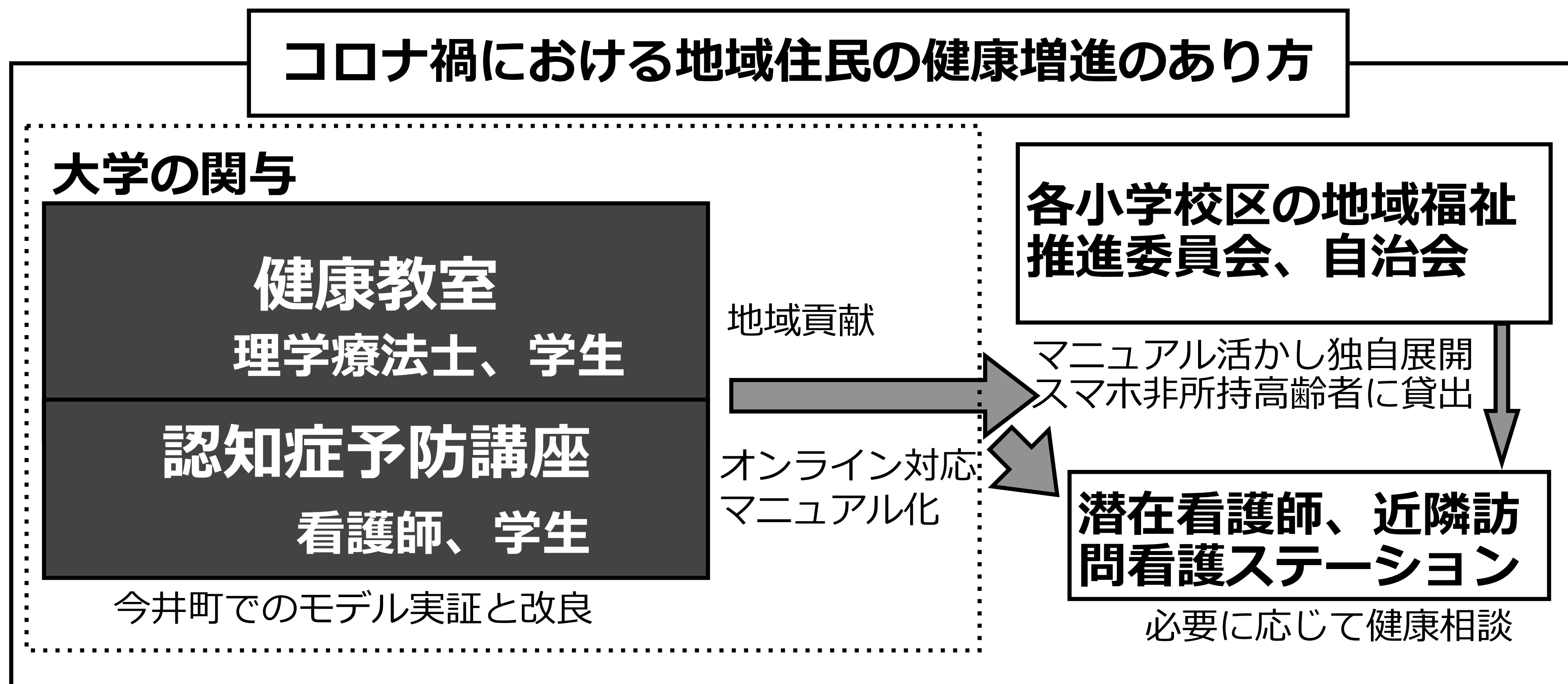
大学と地域が連携した自治会向けコロナ対策講習

- 本学感染症センター長による、自治会向けコロナ対策指導



コロナ禍の健康教室

- 健康教室のオンライン化に対する参加者の評価は現在検証中
- コロナが収束しても、独居高齢者の参加を促進するためにも継続したい
- 大学と自治会・地域福祉推進委員会との連携が必要



■コロナ禍における今井町のまちづくり

- **独居高齢者の見守りなど、これまで問題とされつつ、対策を先送りにされてきた傾向のある課題について、取り組む契機になった**
- **高齢者と子育て世代など、多世代の交流を促進する契機となった**

まちづくり会社「一般社団法人 do-ma」

■医学生・若者による地域の見守り -シェアハウスをまちに埋め込む-

まちづくり会社「一般社団法人 do-ma」の取り組み

1 まちづくり会社とは

- まちづくり会社は、公益性と企業性を併せ持ち、地域経営の観点から、ハード整備とソフト事業を展開することにより、まちの価値の向上に取り組む事業体（責任主体）です。
- （一社）do-maは、これまでの今井町における空き町家の活用・継承の取り組み、経験蓄積を発展させた「積極的なまちづくりの事業体」です。

do-ma 名称

- ▶伝統的な町家建築の特徴である「土間」を想起
- ・伝統を継承すること、特徴を打ち出すこと
- ・内と外とを結びつける場所と機会をつくること
- ▶「do machidukuri」を想起
- ・まちづくりを実践すること



2 主な取り組み

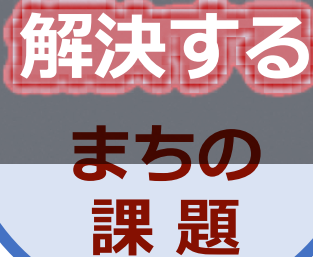
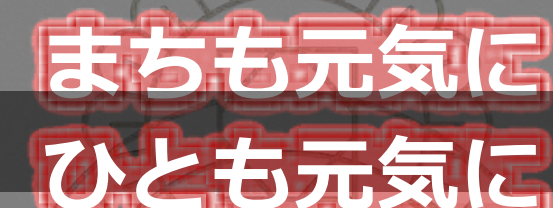
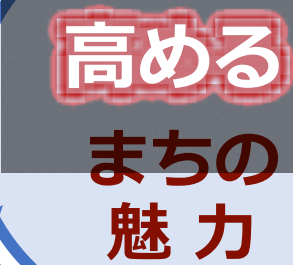
不動産まちづくり

- ▶適切な建物用途の誘導（テナントミックス）
- ▶望ましい人材（財）の誘導（多世代ミックス）
- ▶外部業者による不適切な開発の防止
- ▶空き家情報の管理等

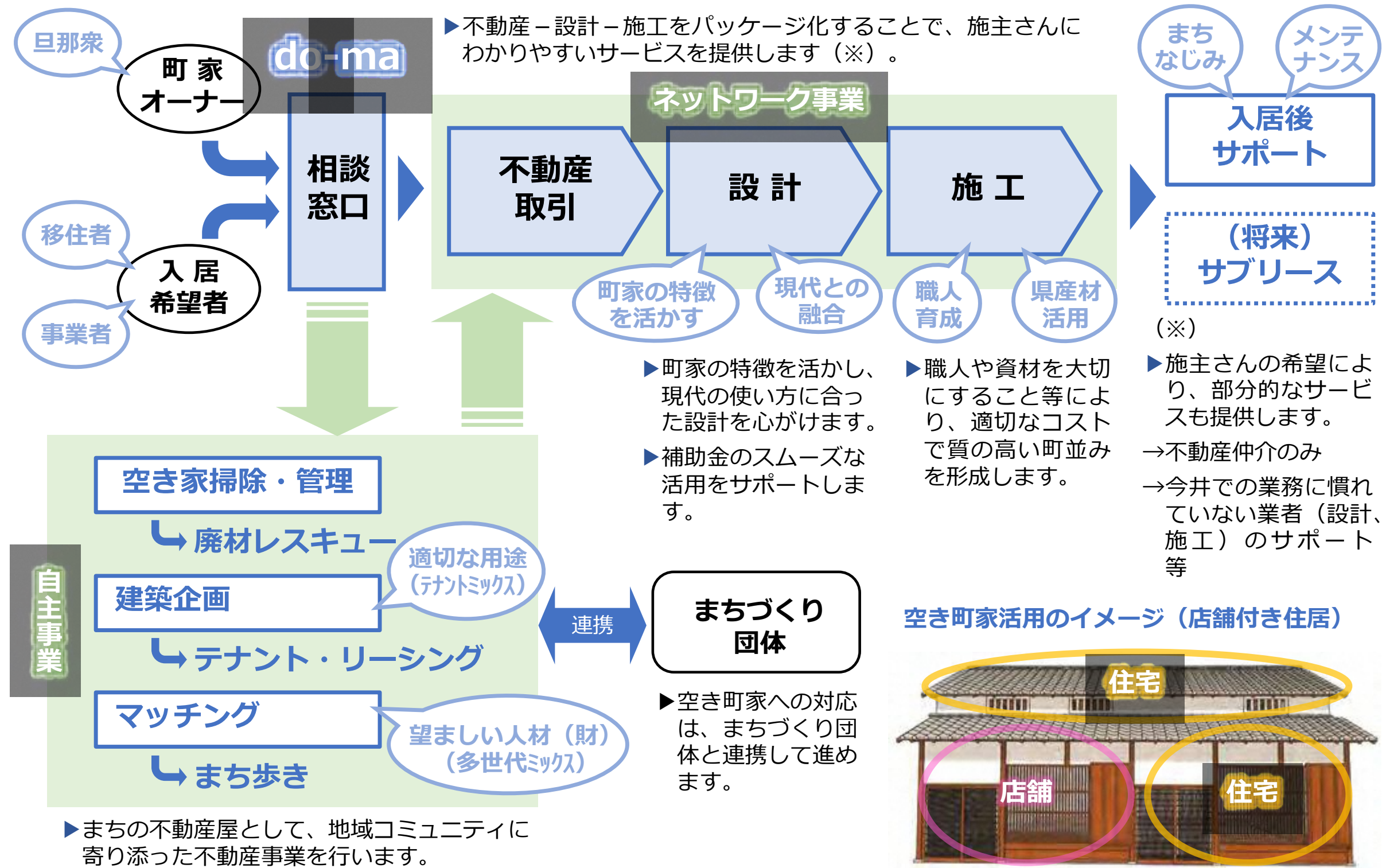


持続可能な町並み形成

- ▶地域を重視した職人や資材の活用
- ▶不動産-設計-施工のパッケージ化
- ▶定期的なメンテナンスの実施等



■町家事業の流れ（例）～川上から川下まで～



■医学生・若者による地域の見守り -シェアハウスをまちに埋め込む-

まちづくり会社「一般社団法人 do-ma」の取り組み



共用スペース「動のサロン」(1F)

約12畳の和室は、共有のリビングやダイニングとして、自由を楽しんだり、くつろいだりすることができます。わいわいと食事をしたり、テレビを楽しんだりする空間です。南側にある庭から、明るい日差しが取り込まれます。



土間サロン

玄関の先には、ちょっとしたおしゃべりができる空間があります。土足のままで、壁のベンチに腰掛けることもできます。

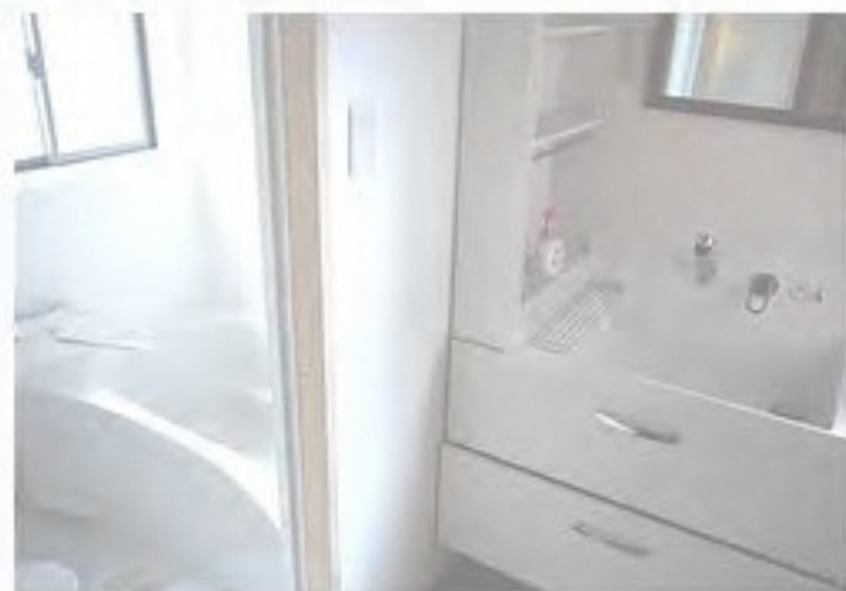


共用スペース「静のサロン」(2F)

2Fにある「静のサロン」は、読書をしたり、屋外の景色を眺めながら考え事をしたり、ゴロンとしたり、住む人が思い思いの静かな時間を過ごす空間です。バルコニーからは、称念寺や畝傍山を眺めることができます。



土間に新たに整備したキッチン、動のサロン(ダイニング)とつながった開放的な雰囲気、明るい日差しも取り込まれ、心地良く料理ができる空間となっています。



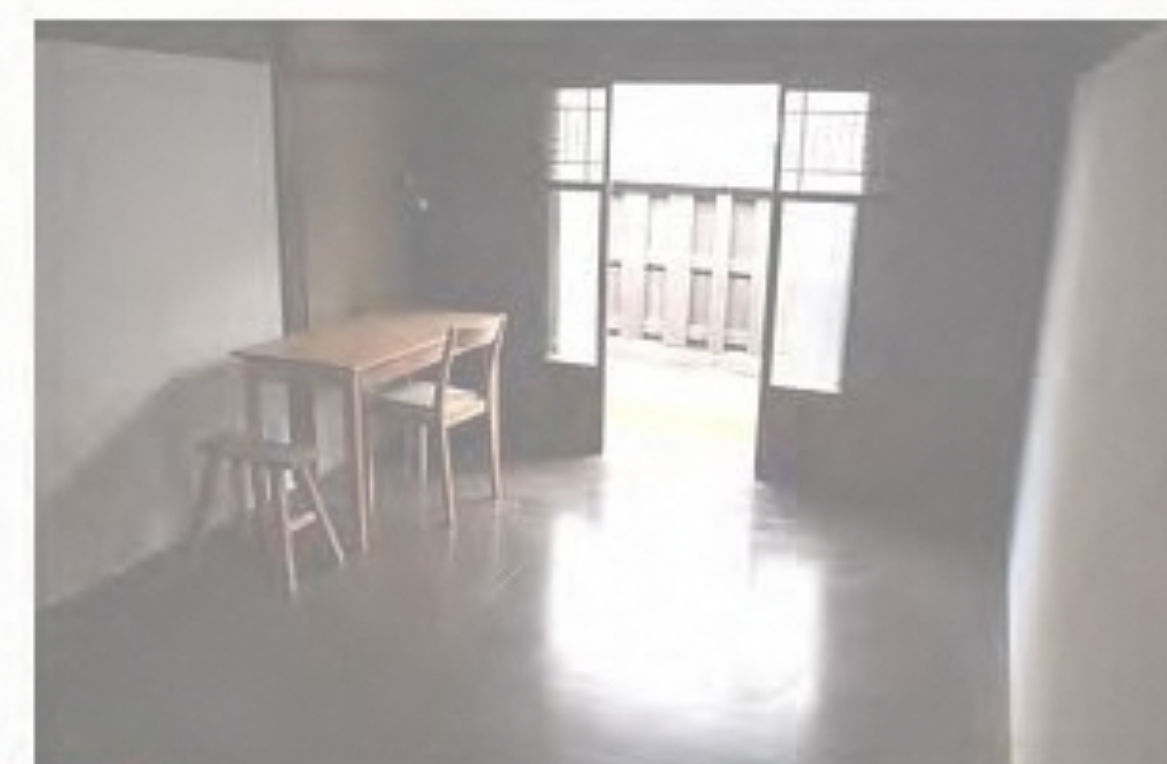
水回り

浴室や洗面室、台所、トイレ等は、清楚で使いやすい現代の設備が整っています。雰囲気は由緒ある町家、機能は現代という新旧の融合が特徴です。

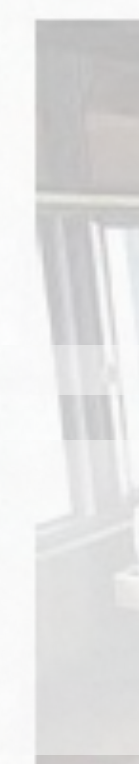
居室(プライベート空間)



1号室 ※入居済



2号室



3号室

■今井町における住民向け健康増進活動

「ひとも元気に」 -多世代が健康に生活できる地域へ-

空き家のさらなる改修・利活用

(めまい外来患者のための宿泊施設等を整備)

→医療ツーリズムの推進

結果を反映

**健康見守り
実証実験**



地域経済を活性化する

<今後の展開活用案>

参加することに健康ポイントを付与
貯まった健康ポイントは、で使え、
健康保険料の割引等も検討

(保険会社と協力)

電子地域通貨との交換も検討

(地銀・信用金庫と協力)

→地区内の飲食店等で

使えるようにする

地域ポイントやマイナンバーカード

との一体化をめざす

健康教室の開催

体温測定、出席者名簿管理の効率化

住民の健康増進を促す

次の世代の医療人を

地域の中で育てる



会員カードで参加頻度が見える化

(バーコードシールに測定データを内挿)

医学研究
を推進

参加者と非参加者それぞれのメタボ、
ロコモ、腸年齢、幸福度などの変化
に加え、地域の活動への参加頻度、
外出頻度などの波及効果などの差異
を分析し、健康教室の有用性を検証

結果を反映

**地域住民と医療介護専門職
の人々との交流を促進し、
健康・運動・食育を軸に
多世代コミュニティを醸成
健康寿命を延伸**

予防・早期発見



かかりつけ医のいる医療・介護施設と
測定結果を共有
→診断の補足資料として活用